

元気からだ! Q&A

飛蚊症ってどんな病気?

千葉県眼科医会

伊藤 泰明 医師

Q どんな症状?

A 白い壁や天井、青空などを見るとき、視界に小さい虫や糸くずのような浮遊物が見えることがあります。

視線を動かしても、瞬きをしても自然には消えず、一緒に動き付いてくるように感じます。

常に見えるわけではなく、暗いところなどでは気づきません。

Q 何が原因?

A 眼球の中には、透明なゼリー状の硝子体が詰まっています。

飛蚊症は、硝子体の濁りが原因になっています。

外の世界から眼の中に入った光は、透明な角膜と水晶体、硝子体を通り網膜に達します。しかし、硝子体に何らかの濁りが生じると、その濁りの影ができ、あたかも浮遊物が飛んでいるように感じる場合があります。これが「飛蚊症」の原因です。

飛蚊症には、どなたでも起こりえる生理的なものと、網膜剥離や眼底出血など病的なものがあります。

Q 診断と治療は?

A 診断は、眼底検査を行います。瞳孔を開く点眼を用いて網膜を隅まで観察します。

ゼリー状の硝子体は、加齢により液状に変化し網膜から離れる現状が起きます(硝子体剥離)。また、近視が強い人でも若くして同じ変化が起きることがありますが、これらは生理的な飛蚊症で、症状に変化がないことが多く、

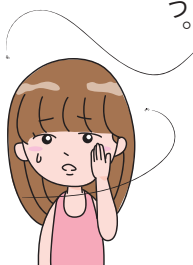
治療を必要としません。

しかし、飛蚊症の症状が急に増えた、大きくなったなどの変化がある時は、眼の病気のサインであり、必ず検査を受けましょう。

網膜に穴が開く網膜裂孔では、レーザー治療により穴の拡大を防ぐ治療が必要で、網膜の一部が剥がれる網膜剥離の場合は、硝子体手術が必要になります。

その他、糖尿病や高血圧などから網膜の血管が切れて出血が漂う硝子体出血などがあり、その量が多いと、硝子体手術で出血を取り除く必要があります。

飛蚊症の多くは生理的なものですが、自分で判断せず眼科を受診しましょう。散瞳検査を行うと4から5時間は瞳孔が開き、まぶしさや見づらさが生じるので、受診の際は自動車の運転は控えましょう。



✉ 病気や医療に関する質問を受付けております。

千葉県医師会広報係まで 〒260-0026 千葉市中央区千葉港 4-1

※個別の病気につきましてのご質問には応じかねますので、ご了承ください。

